

老健いばらき

第48号

2016.2.1



日本遺産に認定された弘道館

写真提供/水戸市産業経済部観光課

納豆をイメージしたかぶり物と偕楽園に咲く梅の髪飾りをつけ、水戸黄門さままでおなじみの衣装、印籠を持っているなど、水戸の特徴がぎゅっと詰まったキャラクターです。キュートな笑顔でみんなを癒します！

水戸市
マスコット
キャラクター
「みとちゃん」

発行所/一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
発行人/平成園 小柳賢時

編集人/かすみがうら
編集/田尻ヶ丘ヘルシーケア
鹿野苑
プラタナスの丘
シニア健康センターしおさい
つくばリハビリテーションセンター

大場 正 二
石川 達 也
熊坂 裕 吾
大曾根 卓
児島 強 博
鈴木 基 博



一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

会長 小柳賢時

明けましておめでとうございます。中国経済の影響や、世界的な社会情勢の不安から、日本の株価も連日下落して始まりました。消費税10%アップ時の軽減税率の政策的な問題など、社会保障費に回る税収が不安定であります。また、人口構造の変化により、国力も低下する可能性もある中、我々は地域包括ケアシステムにおいて、多職種協働の施設としての強みを生かしていかなければなりません。今、茨城県では、茨城県地域包括ケアシステム推進マニュアルを策定中であり、各市町村から意見を聴取中であります。それぞれの地域の老健において、各市町村のコーディネート機能にも十分参画して、茨城県の地域包括ケアシステムを成し遂げていきたいと考えておりますので、皆様ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人

茨城県介護老人保健施設協会

監事 上地弘二

(境町メディカルピクニック 施設長)

この度、茨城県介護老人保健施設協会監事に就任させて頂きました上地です。平成27年7月からはじめて老健の仕事をする事になりました。

昭和39年に産婦人科医としてスタートし、

半世紀間産婦人科医療に関与してきました。昭和47年に宇都宮にて開業。翌48年、第2次ベビーブーム到来。出生数は2008万でした。

当時、今のような老人問題などは誰も想像しなかったと思います。昨今、出生数は半減し、老人社会に突入し、出生数を死亡者数が30万も上回り、日本の人口減少が問題になっていきます。高齢人口が近々30数%へ近づくと見られます。それにひきかえ出生数は100万台から将来半減するであろうとの推計値(50万台)があります。人口構造は出生数と関連があり25年から30年のスパンでしか解決できない。当然、戦後の(第1次)ベビーブームの世代が高齢化していく時代は介護をして頂く若い世代は少なく、受ける側の世代は増え続けるので、今以上に人手不足になるのは当然です。おそらく看護や介護の分野でも、インドネシアやフィリピン、ベトナム等の若い方々が研修生として働きながら日本の資格を取得していくことが近い将来増えていくと思います。安倍首相も、高齢化問題の対策として、特養の増設、介護離職者の防止策、出生率を上げる対策を(1.42→1.8)打ち出しています。時間差がありますが、徐々に進むものと思います。

最後になりましたが、当施設は創立以来17年間、(故)玉田太郎先生(自治医大名誉教授)が地域社会に密着した医療と介護の連携を基本理念に従業員を育て診療を続けられた施設です。故人の基本方針を忠実に守りながら、従業員一同と共に地域社会に貢献をしていきたいと思えます。

また、今後は協会の発展のため、微力ながら努めてまいり所存でございます。ご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

茨城県保健福祉部

長寿福祉課地域ケア推進室

室長 村田 隆

あけましておめでとうございます。茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から本県の高齢者福祉行政の推進並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご協力とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国においては高齢化が急速に進展しており、それに伴い医療や介護を必要とする高齢者が大幅に増加しております。その一方で、サービスの提供を担う看護職員・介護職員の人材不足や高齢の家族の介護のため離職する、いわゆる介護離職が大きな問題となっております。

このようなか、平成26年6月には、いわゆる「医療介護総合確保推進法」の公布、昨年1月には国家戦略として認知症対策を位置づけたいわゆる「新オレンジプラン」の策定、また11月には一億総活躍国民会議において少子高齢社会に向けた対策の取りまとめがなされました。

県におきましても国の施策を踏まえ、平成27年度からの3年間を計画期間とする「第6期いばらき高齢者プラン21」を策定しております。このなかでは「団塊の世代」全てが75歳以上となる平成37年を見据え、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を政策目標の柱に掲げ、各種施策を市町村、関係団体及び県民の皆様と共に推進してまいります。

地域包括ケアシステムの構築にあたり、介護老人保健施設には、在宅復帰支援機能について引き続き強化いただきますとともに、介護だけでなく、医療についても専門知識を持った人材を多く抱えていることから、訪問

看護ステーションや訪問リハビリテーション事業などに積極的に取り組んでいただくことで、そのノウハウを地域に還元し、高齢者が在宅でケアを受けながら生活できる体制づくり等が期待されます。

結びに、今後とも本県の高齢者福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、茨城県介護老人保健施設協会の益々のご発展を祈念いたします。



茨城県介護老人保健施設協会 功労者表彰受賞にあたって

介護老人保健施設 そよかせ
看護師 小澤泰子

この度は、功労賞表彰を頂き、誠にありがとうございました。私が勤務する施設は、平成8年に開設し、今年で20年を迎えました。私はそれまで、病治療専門の病棟勤務の経験しかなかったのですが、老年看護に興味があった事と、福祉施設で看護の基本をもう一度学び、今まで得た知識と経験を生かしたいという思いで、開設されたばかりのこの施設に入職致しました。しかし、今までの看護を生かすとは言ったものの、老年期にある方の特徴、疾患、思いなど十分に理解することができず、試行錯誤を重ねる毎日でした。特に認知症のある方に対しては、看護する側の言葉使いや態度など敏感に感じ取り、少しのしぐさや表情だけでも、不安になったり、混乱させてしまったりと、自分の存在がそのまま相手に影響を与えてしまうという事を強く感じました。これまでの20年を経て、施設看護師の役割とは何かを常に考え、業務に取り組んでいきたいと思っています。

老人保健施設に求められる役割は、社会情勢や法の改正と共に変化し、その期待に応えられるよう柔軟な対応が必要になっていきます。当施設は、胃瘻、吸引、褥瘡、酸素療法など医療依存度が高い方や、施設で看取りを希望される方の受け入れ、また多職種で連携して行う栄養サポートチーム（NST）や在宅支援などを行っています。医療依存度の高い方へは、介護士と連携して対応し、NST活動はその導入前に比べ、褥瘡の発生率を減少へ導くなど、チームケアを一歩前に進めることができたと考えています。

現在、地域包括ケアシステムの構築を目指し、サービスの重点化、効率化が進められています。老健は、在宅復帰が強化され、入所前から在宅を見据えた支援が求められています。ご本人が望む生活をシームレスに支援していき、最後は声を出さずともできるといいます。ありがとうございます。

し、サービスの重点化、効率化が進められています。老健は、在宅復帰が強化され、入所前から在宅を見据えた支援が求められています。ご本人が望む生活をシームレスに支援していき、最後は声を出さずともできるといいます。ありがとうございます。

茨城県介護老人保健施設協会 永年勤続者表彰受賞にあたって

介護老人保健施設 そよかせ
介護福祉士 松本せつ子

この度は永年勤続者として表彰して頂き深く感謝申し上げます。感激でいっぱいです。平成8年4月に入職し、7月に老健そよかせが開設されました。3ヶ月間の学習・緊張した病棟での研修を思い出します。あれから早くも「20年」が経ちました。

入職後間もない頃、夜勤帯に一人の利用者が急変し亡くなる場面に直面しました。就寝時はなんでもなかったのに、シヨックで体が震えました。命をお預かりしているんだという重い責任感・恐怖感を感じたことを覚えております。もう一つは、ALSの利用者様との出会いです。この方は「症状の進行に伴い一人で食べる事もできなくなるだろう。最期は呼吸もできなくなる」と、呟いておられました。「この病気は私から全ての事を奪っていった。」「悔しい・・・!」と。常に前向きで、なるべく人の手を借りないようにと工夫し頑張り、また、スタッフ一人一人に声かけしてくれたり、腰痛などのアドバイスもしてくれました。ある日私にもそっと声かけしてくれました。「松本さん、今度マラソン大会に出るんだって?練習ができないなら誰も見ていない廊下でスキップするように歩けばいいんだよ。そんなら恥ずかしくないだろ

う?ふくらはぎを鍛えて!」と。介護される側なのに反対にスタッフを思いやってくれました。そして日に日に弱っていく、最後は声を出さずともできなくなりました。亡くなる朝、私は枕元で「ありがとうございます。心からお礼を言いました。」と、心からいってくれたと思います。こうして色々な事を経験させて頂き、学ばせて頂きました。登山で言うのなら今は九合目を目指してゴールできるよう寄り添う介護を心掛け努力してまいります。本当にありがとうございます。

功労者表彰受賞者一覧表

施設名	職名	氏名	勤続年数
コミュニティケアセンター 縦山	介護職員	宮本 栄拓	10年3ヵ月
さざんか荘	介護職員	小林 良子	19年
サングリーンやさ	支援相談員	広瀬 正二	17年1ヵ月
シニア健康センターしおさい	看護士	石ヶ森 治子	15年
そよかせ	看護士	小澤 泰子	20年
田尻ヶ丘ヘルシーケア	介護職員	鈴木 孝亮	18年5ヵ月
ノア	介護福祉士	中田 修	16年
平成園	支援相談員	山中 明男	10年
ゆゆう	介護支援専門員	市川 光治	14年

永年勤続者表彰受賞者一覧表

施設名	職名	氏名	勤続年数
生きいき倶楽部	介護職員	吉村美恵子	12年
大宮フロイデハイム	介護職員	蛭川千恵美	10年
大宮フロイデハイム	介護職員	鯉淵 明美	10年
温泉リハビリセンター虹の丘	介護士	藤田 菊枝	15年
温泉リハビリセンター虹の丘	調理師	鈴木 好子	14年
温泉リハビリセンター虹の丘	介護士	高橋はるえ	13年
温泉リハビリセンター虹の丘	介護士	吉澤 典子	12年
温泉リハビリセンター虹の丘	介護士	竹内ひとみ	12年
かすみがうら	介護部長	小島美枝子	10年
かすみがうら	管理栄養士	山崎真美子	10年
協和ヘルシーセンター	介護福祉士	服部 宏子	14年
協和ヘルシーセンター	介護福祉士	砂岡 由佳	12年
くるみ館	介護職員	横川 英子	11年
くるみ館	看護士	佐久間みな子	11年
くるみ館	支援相談員	横山 信介	10年
コミュニティケアセンター 縦山	看護士	羽生 静香	12年7ヵ月
さざんか荘	介護職員	森田 知隆	11年6ヵ月
サングリーンやさ	看護課長	室 隆子	13年6ヵ月
シニア健康センターしおさい	介護士	高橋 友子	10年
シニア健康センターしおさい	運転士	宇野 三男	10年
シルバークア土浦	作業療法士	細川 美智子	11年0ヵ月

施設名	職名	氏名	勤続年数
シルバークア土浦	准看護士	藤代 貴則	10年9ヵ月
シルバークア土浦	介護福祉士	長田 千明	11年1ヵ月
シルバークア土浦	介護職員	小川 元裕	10年5ヵ月
シルバークア土浦	介護職員	鈴木 方和	10年2ヵ月
シルバークア土浦	介護職員	金沢 有希	10年
スーベリア360	准看護士	笹目 京子	10年
スーベリア360	介護福祉士	石井 和子	10年
セントラルゆうあい	介護支援専門員	西川 千里	10年
セントラルゆうあい	介護福祉士	村松 幸則	10年5ヵ月
そよかせ	介護福祉士	松本せつ子	20年
そよかせ	介護士	杉山 秀子	20年
田尻ヶ丘ヘルシーケア	事務	赤塚 英気	15年
つくばケアセンター	介護福祉士	塩入 幸雄	11年
つくばケアセンター	事務	小野口俊輔	10年
つくばケアセンター	介護福祉士	泉 めぐみ	10年
ナーシングホームかたくり	主任	清水 泰成	10年
ナーシングホームかたくり	相談員	根本 美香	10年
ナーシングホームかたくり	調理師	大塚 美鈴	10年
ナーシングホームかたくり	事務	池上真由美	10年
日立南ヘルシーセンター	介護主任	日所真理子	15年
ロスベクトガーデンのちがひ	看護科長	江幡 友子	10年
ロスベクトガーデンのちがひ	介護科長	佐藤 直矢	10年
ロスベクトガーデンのちがひ	相談室主任	川上 太一	10年

施設名	職名	氏名	勤続年数
ロスベクトガーデンのちがひ	介護副主任	河野 嘉紀	10年
ロスベクトガーデンのちがひ	介護福祉士	袖原美奈子	10年
平成園	管理栄養士	森 麻衣子	10年
平成園	介護福祉士	平沢 健司	10年
マカベシルパートピア	准看護士	植竹二志子	11年
マカベシルパートピア	認知ケアマネジャー主任	畑谷美奈子	18年
マカベシルパートピア	主任相談員	染谷 照子	10年
マカベシルパートピア	理学療法士	中井 崇	10年
マカベシルパートピア	作業療法士	山根 知子	10年
マカベシルパートピア	介護職主任	黒崎 毅	11年
ゆうゆう	准看護士	相野谷ゆう子	10年10ヵ月
ゆうゆう	運動医療師	嶋田 朋子	10年9ヵ月
ゆうゆう	清掃	小松崎勝利	10年7ヵ月
ゆうゆう	管理栄養士	菅田恵美子	10年3ヵ月
ゆうゆう	事務	橋本 直之	10年
リヒトハウス北浦	看護職	田中 まき	11年
リヒトハウス北浦	看護職	谷 貞子	10年
リヒトハウス北浦	調理職	小室さよみ	11年
リヒトハウス北浦	調理職	清水みどり	11年
ルーエしもつま	准看護士	塚部まち子	17年
ルーエしもつま	管理栄養士	塚田 洋子	17年
ルーエしもつま	事務主任	染谷 篤志	17年

以下は、平成27年7月6日のアンケート調査「他施設に加算関係について聞きたいこと」について、加算算定施設からの回答となります。

ご回答いただいた施設の皆様、ご多用の中、本当にありがとうございました。

まだ算定されていない施設におかれましては、今後の老健施設サービス提供の一助となれば幸いです。

①リハビリマネジメント加算Ⅱを行う上で、外部の居宅介護支援事業所の反応、評判はどのようなものがあるのか。

・単位数が高いため、使いにくくなっている。金銭面で制限のあるケースはそれだけで通所介護へつながることもある。

・月に1回会議が開催されるため、密な関わりの中でメリットを感じて頂けることも多い。

・通所リハビリテーションと通所介護の比較がより一層シビアになっている。

・セラピストと連携が密になり、これまでなかった相談や意見交換ができています。

・単位の上限との兼ね合いから、必要サービスを組みにくくなっている。

・リハビリの状況についての情報交換が以前より行いやすくなった。今までは、担当者会議を開催しても、リハスタッフの出席率は低く、時間をとって話をする機会がなかった。

・施設での生活内容、リハビリの内容、身体状況を直接聞くことができ、ためになる。又、面倒くさがるケアマネと二通りに分かれる。

・今のところ、都合がつく限り参加して頂いているが、実際のところ、時間的に迷惑をかけているかもしれない。施設、主に医師の都合に合わせてもらっているため。

・“リハマネⅡをとるんですね”、“利用者負担が少し増える”との声があった。

・H27年4月以前から利用者に関しても、6ヶ月以内は毎月の会議の開催が今更必要なのか？
⇒加算を取る為だけの会議で意味がない。4月以前からの利用者は3か月に1度の会議で700単位/月から加算できるようにならないか？

・サービス担当者会議と同様の内容なので、会議を開催する主催者がケアマネ側か、施設側かの違いだと思う。

・利用者にとって、ケアマネと施設スタッフへ情報が共有できることは良いことだと思う。

・現在当施設にて数名リハマネⅡを算定しているが、リハ会議への参加に対して難色を示された居宅介護支援事業所はありません。

リハマネⅡを希望される利用者には退院後の方が多く、利用者家族も毎月医師との話し合いが出来ること概ね好評。居宅介護支援事業所の反応としても、毎月通所リハのリハ職や介護士、医師から今現在の利用者本人の状態が直接聞くことが出来るのでケアプランを立てる上でも参考になるとの声を頂いている。今後も当施設では、リハマネⅡの算定と生活行為向上リハの算定を推進していきたい。

・リハビリマネジメント加算Ⅰを行う事業所が多く、利用者やその家族及び関連スタッフが参加するリハビリテーション会議を開催するのが難しいという意見が多く聞かれた。

・できるだけ、担当者会議に合わせて日程調整しており、その際には出席していただいている。日々の業務で忙しく、日程調整できないのが、一番の理由。

6ヶ月間、毎月会議を実施しても、利用者の状態に大きな変化は無いため、会議録での情報伝達で十分との意見もあった。

・単位が大きいため、限度額ぎりぎりですべてサービスを利用している方へすすめていくことは難しい。その都度、ご家族と相談しすすめている。

・マネジメント加算ⅠもⅡも、計画書の書式が同じなので、利用者への説明が難しい。

・初めはリハマネ加算Ⅱにおいてケアマネの理解度が低く、加算に対しての料金が高い事や1ヶ月で効果が得られるのかと疑問視する声が多かった。しかし、実際に連携を図りながら実施し、成果を上げられたことから、現在ではリハマネ加算Ⅱの算定依頼が増えた。4月からリハマネ加算Ⅱの算定を開始し、開始当初は算定者数2名であったが、12月現在では算定者数26名となっている。

また、以前は、ケアマネ単独で悩みながら住宅改修やレンタル開始など行われることが多く、また相談員を通して連携であったため、何事も事後報告が多かった。

しかし、リハ会議などでお会いする機会が増え、顔の見える関係が構築されたことで、セラピストの役割が理解され、事前に相談されるケースが増え、各々の役割分担が明確になった。

・外部居宅の反応としては、新規紹介については納得して頂きやすい状況。ただ、単位数の件であまり算定したくないとの意見は聞かれている。退院直後で自宅の環境調整が必要な方等は毎月の居宅訪問があることや、医師の助言があることでケアプラン作成に反映しやすいと受け入れがよい。しかしまだまだケアマネジャーの中で、リハマネⅠとリハマネⅡの違いや、リハマネⅡ 1とリハマネⅡ 2の違いが浸透していないように感じる。

・概ね良好な反応を頂いている。メリットとして聞かれたことは、詳細なリハビリ計画書が得られるので、アセスメントやモニタリング時活用することができる。また、リハビリ会議に参加することで利用者のリハビリ状況や残存機能を生かした生活動作の方法も知ることができ、他のサービス事業所とも情報を共有しやすい。デメリットとしては、毎月のリハビリテーション会議への参加で参加者が多くなると日程調整がしにくい。加算単位が高いため利用者に簡単に勧めることができないことや、ケアマネの立場からリハマネⅡが必要でも、本人や家族の同意が得られない場合がある。

②リハビリテーション会議を行う上で、医師の関わり方は、説明と同意はもちろん、会議の出席についても、どの程度医師に行ってもらっているのか。

・会議には毎回出席してもらい、その中で、説明と同意も行ってもらう。

・全会議に医師の出席あり。医師の都合が合わない時には、CMやご家族様と調整していた。対象利用者3名。

・リハ会議全てに出席してもらい、説明している。

・説明と同意は毎回、医師の出席は医師に予定が入っている時以外は出席して頂いている。

・説明と同意は、医師が実施。会議の出席は、医師が出席できる日程でリハビリ会議を開催している。

・説明と同意については、確実に行って頂けているが、会議への参加は業務の都合上、ほとんどできてない。会議開催場所の主を自宅としているためハードルとしては非常に高くなっているのが現状。

・当施設では、リハ会議に関しての説明と同意は、契約時に支援相談員が行う。医師は、リハ会議に必ず出席している。リハ計画書の説明はリハビリ職員が行い、最後の同意に関しては医師が記入している。

・当施設では施設常勤の医師に計画書の説明と同意をしてもらっている。説明時には担当療法士が共に加わり、説明をしている。また、リハ会議についても同様に、施設常勤医師に参加して頂き、基本的に施設で会議を実施することが多い。医師については、ほぼ毎回会議に参加している。ただ、当施設で最大7名での実施だったので可能だったが、全利用者を実施となると日程等とても困難になると考えている。

・リハビリテーション会議には、毎回出席し利用者の健康状態、日常生活能力の評価及び改善の可能性等について説明して頂いている。

・リハビリテーション会議の開催については、利用者の在宅での生活動作、生活環境、生活範囲、人間関係などを把握するために自宅で行う事としている。
現状としては施設医のリハビリテーション会議への参加は業務の都合上困難である為、担当のリハビリ専門職からリハビリテーション会議の内容の詳細を伝達し、その情報を基に医師と共同でリハビリテーション実施計画書の作成を行っている。リハビリテーション実施計画書の説明と同意については、ご本人・ご家族に來所して頂き、リハビリ専門職が同席した上で医師から行っている。同意を得たリハビリテーション実施計画書についてはコピーをケアマネや主治医等にお渡しし、必要に応じて電話などで報告している。

・10分前後/人、1～6人/日。生活面での注意、アドバイスや、リハビリを行う上での効果、目標などを話して頂いている。

・1月前には翌月のリハ会議のスケジュールをたてているので、事前に医師の会議に出席可能な日程を確認したうえで、日程の調整を行っている。そして可能な限り利用者の利用曜日にリハ会議を設定し、医師に出席して頂いている。説明と同意に関しては、リハ会議の中の最後に、総括で計画書の内容を含め説明していただき、同意を得る形としている。現在、8割程度は医師の同席のもとリハ会議が実施できており、残り2割の方に関しては後日計画書の説明を行っている。

・医師のリハビリテーション会議への参加については、3回に1回は医師より方針説明を行っている。可能な限り、日程を合わせているが、それでも難しい場合には、会議録での報告を行い、それを元に診療を実施している。医学的な立場からのアドバイス等が必要な時には、リハビリテーション会議時以外の日程に医師から利用者への面談の機会を持っている。また、適宜、医師に目標の達成状況を報告し、利用者様の状況を把握して頂けるように努めている。

認知症になっても住み慣れた町でよき理解者と 応援をしてくれる人と暮らしたら。

老健ゆうゆう 磯山 侯子

2011年函館～札幌間の300kmを参加者わずか17人で始まったRUN伴は、翌年は札幌から東京、翌々年には旭川から大阪へと広がり、今年は北海道の北見市から九州は福岡県の大牟田市まで繋がり、距離約3000km、合計6000人が参加する大イベントになりました。RUN伴とは全国の町を認知症になっても安心して暮らせる町にしよう！と活動しているNPO法人認知症フレンドシップクラブが運営するイベントで、認知症の人や家族、支援者たちが、認知症サポーターカラーであるオレンジ色のTシャツを着て、少しずつリレーをしながら走って襷を繋ぐという全国キャラバンのことです。正式名称は「RUN TOMO-RROW」。明日を意味するTOMORROWと伴走者の「伴」をかけて「RUN伴」と呼ばれています。老健ゆうゆうでは昨年度から参加し、現在、県内の老健参加施設は、もえぎ野・大宮フロイデハイム・ゆうゆう等で、多くの応援者が茨城県にいることを頼もしく感じました。

RUN伴は年1回ですが、介護施設のスタッフの方々の参加が増え、またオレンジのTシャツは介護家族を支援するイベントなどの多くの場所で着ることによって、「あのTシャツ

を着た人達は何者だ？」と感心を寄せていただき、説明することで、「そうなのか」とわかって下さる地域の方々の反応を感じました。老健ゆうゆうの通所では、スタッフが曜日を決めて一斉に着用しています。個人的な活動では石岡の駅前通りのまちかど情報センターでの健康相談・認知症相談のボランティア活動で着用し、「歳のわりに派手な色だな！」などの声には、透かさず説明をしています。今年度、オレンジのRUN伴達は、老体に鞭打ち走る決心をしておりましたが、常総市の災害のためのボランティア活動を選択し、ジャージとオレンジのTシャツは泥だらけになりました。しかし最後は、入浴後また頑張ろうとの祝杯で締めました。沢山の仲間が襷で繋がるラン伴は、認知症の方々のためのものです。中心を見据えた活動が益々多くの仲間と繋がることを望みます。

また大切なのは、認知症を知ろう！支援しよう！その心意気と合わせて、認知症だと知られたくないマラソンやキャンペーンに耳をふさいでいる人もたくさんいることを解っている必要があるということ。病気を受け入れ立ち向かうには、サービス体制がニーズを満たしていない現実や、在宅でも介護サービス費が支払えない方や施設利用待機の方も多くいらっしゃるのも現実です。

私たちは一般市民ですが、ケアの専門家でもあります。認知症は先の見えない長い介護を必要とする疾患です。認知症とは認知機能障害を起こす病気の総称です。原因となる疾患は多くありますが、その疾患を抱えて生活障害に立ち向かっている人の困りごとを聴いて受け止め、さらに生活の支援が出来ることが重要です。応援するということの重さを感じながら、決意が揺らぐことなく、介護パートナーとして存在意義を見出したいと思います。



支援相談員専門委員会 研修会報告

委員長 涼風苑 伊藤 綾子

平成27年11月10日につくばアルスホールにて、「利用者とあなた（職員）を守るために～職場のリスクマネジメントを学ぶ～」をテーマに研修を行いました。講師には宮長定男先生をお招きしました。

宮長先生より支援相談員の業務と役割からリスクマネジメント、ヒヤリハットの意義や重要性についてはいくつかのケースを通しながらご講義いただきました。

事故が起きた時の対処方法では、連絡する順番から家族への声のかけ方 マニュアルに至るまで重要な事を整理して教えて頂き、事故報告書を書く上で大切にしなければいけないことではエビデンスある事故の解明に心がけることが重要であるなど一つ一つ噛み砕いて解りやすくお話し下さいました。

リスク管理は利用者とあなた（職員）を守るためにという原点に立って、日々の業務の中でアセスメントをしっかりと

行ない 一人ひとりの生活状況や環境等含めてしっかりと予見を立てていくことが何より良い施設作りへと繋がることを学びました。

今後も現場に即した研修を開催していきたいと思っていますので皆様ぜひ御参加頂きますよう、よろしくお願ひいたします。



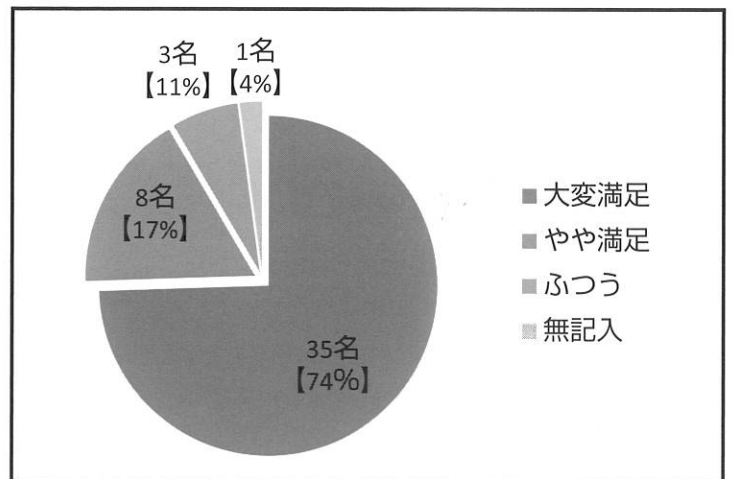
H27年11月10日 第2回支援相談員専門委員会アンケート集計結果

参加者構成

出席者47名中、アンケート回収数47名
管理・監督者3名 従業員44名

研修評価

今回の研修会はいかがでしたか？	人数	割合
大変満足	35	74%
やや満足	8	17%
ふつう	3	11%
無記入	1	4%
合計	47	100%

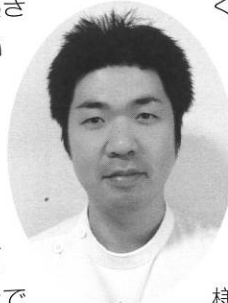


参加者の声

- ・ヒヤリハットの事故報告書の書き方、レクリエーションの計画の立て方が細かく、見習わなければと思いました。
- ・あらためて情報の共有、共通理解、アセスメント、モニタリングの大切さに気付かされた。予見、起きてしまった時の対応の見直し、検討を心がけていきたいと思ひます。
- ・実際に起きた事故ケースに沿ったお話だったため、大変分かりやすかった。宮長先生の経験に裏打ちされた話だったので、より一層心に響いた。
- ・実際の裁判で必要な情報があり、普段から何を気を付ければ良いかよく分かった。
- ・私の施設でもリスクマネジメントの研修を受けているがそれ以上の話や経験談を聞けてよかった。

自主トレーニング推進運動 で活気ある施設に

ご利用者が生じやすい不安やうつ状態等の精神状態は心身症として、胃潰瘍・筋緊張性頭痛・過敏性腸症・発作性頻脈などを生じ、身体機能面にも悪影響を与えています。そのような方は動く事を嫌い、日中も起きている事が少なく廃用を進行させる危険性が高いです。高齢者の身体機能を維持するうえで重要な事は活動性を低下させないことですが、リハビリの時間で体を動かすだけでは、運動量が少なく身体機能維持することも困難になってきます。ご利用者様たちにはまだリハビリを「やってもらうもの」と認識されている方が多いのも現状です。リハビリ効果を上げるためには心理面への働きかけが絶対不可欠であり、リハビリは「自分でやるもの」と認識を変化させなければならぬと思います。



介護老人保健施設 フェニックス那珂
理学療法士 弓野 拓也

そこで当施設においてはスタッフ一丸となって自主トレーニングの薦めを行っています。運動の重要性を理解して頂く為に何度も説明を繰り返し、自主的に動いて頂くように促してまいります。また、健康トリムを施設内に設置する「環境の仕掛け」も行っています。このような働きかけを行ってきた結果、利用者様同士で自主トレを誘い合っている場面も多く見受けられるようになり、活気溢れる施設になってきていると思います。これからも心身ともに元気に生活して頂く為に、様々な工夫をしながら利用者様の自主性を引き出せるように支援していきたく思います。



外出する楽しさを支えたい

当施設は常陸大宮市にある入所定員80名、通所30名の老健施設です。開設から7年経過し、当初から作業療法を提供していることもあり、リハビリといえば作業療法ということが定着してきております。

家庭環境や受け入れ先の都合により長期の入所者が増えてしまっている状況においては、身体機能が低下しないように個別機能訓練の実施が必要です。当施設では施設内での生活の質の向上を目指して外出リハビリに力を入れています。80名の利用者に対し月1回ごとの外出を計画し、看護・介護・ケアマネ等の他職種にも参加協力して頂き、実施しております。

施設に入所すると、どうしても外出の機会が少なくなり、季節を五感で感じる事が減ってきてしまいます。外



介護老人保健施設 プラタナスの丘
作業療法士 桜井 学

出するということで服装に気を配るなど、普段とは異なる様子も見られます。また施設内での機能訓練では得ることのできない季節感を味わったり、外で弁当を食べる際に日頃食事の量が少ない方も全量摂取されたりと、メリットもたくさん見られております。

老健施設において、リハビリ職員の少ない状況で個別機能訓練の他に外出プログラムを追加していく事は、業務面で大きな負担だと思えます。しかし、老健施設でのリハビリは長期入所者が多い現状において、機能面だけではなく生活の質の向上へアプローチする事も必要だと感じます。今後も、外出の楽しみを実現できるような作業療法を提供してまいります。

ようこそ 介護老人保健施設 きんもくせいへ



「介護老人保健施設きんもくせい」は、平成27年4月に入所定員88床で開設いたしました。

建物は、地上3階建、1階はリハビリ室、レクリエーション室、食堂を揃え、2階・3階が個室・2人部屋・4人部屋を有する居室となっております。

職員体制も、施設長、看護師、介護師、介護士、理学療法士、介護支援専門員、支援相談員、管理栄養士等を配置し、地域のニーズに貢献できるよう職員一丸となり務めております。また、関連施設、「誠潤会水戸病院」との連携を図り、24時間、医療サポートを受ける事ができ、ご利用者様やご家族様が安心

して過ごして頂ける施設となっております。

今後も地域から信頼される施設として努力していく所存でございます。

今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人誠潤会 介護老人保健施設きんもくせい

〒311-4303

茨城県東茨城郡城里町石塚1223-1

TEL：029-288-7221

FAX：029-288-7223

みんなの広場

さくら日立 (日立市)



●野鳥灯台の夕ばえ

施設で生活されている利用者様は、和気あいあいと様々な作品作りに取り組まれています。この作品は、海に沈む夕日の独特な色と幻想的な世界を、和紙のやさしい色合いと質感で上手く表現でき、製作にあたった利用者様は達成感の大きい作品になりました。

波間や灯台を静かに映し出す夕日がとても美しいです。

サン・テレーズ (小美玉市)



●「ねばーる君親子 あらわる」

毎年、芸術祭として秋に『巨大はり絵』を利用者様を中心に作成しています。

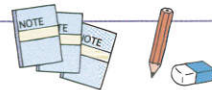
大きさは、その名の通り模造紙6枚分を使用し床から天井にすっぽり収まる位です。

ちぎった折り紙をハサミで綺麗に整えたり、貼る際にのりが斑にならない様に歯ブラシを使用して伸ばしたりと、この作品には、利用者様のこだわりが沢山詰まっています。ねばーる君に乗っているミニねばーる君はオリジナルです。かわいく出来たと思いませんか？

良い作品ができ、皆様へ感謝です。

ただいま茨老健では、「みんなの広場」の作品を募集しております。
ご利用者や職員の皆様の作品、日常の施設内外での写真など、どんなものでも受け付けております。
会員施設の皆様、茨老健事務局まで、奮ってご応募下さい。

— 編集後記 —



◆弘道館について

水戸藩第九代藩主徳川斉昭が、天保12年(1841)に開設した日本最大の藩校です。最後の將軍徳川慶喜は、幼少期に弘道館で学び、大政奉還後ここで謹慎生活を送りました。幾度の戦火を免れた正門、正庁、至善堂は国の重要文化財に指定されています。平成27年4月、偕楽園などとともに、「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」として日本遺産に認定され、注目が集まっています。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会

水戸事務局
水戸市千波町1918 (月・金9:00~13:00)
TEL. 029-291-5376 FAX. 029-291-6057

平成園
古河市旭町1-17-39 (左記以外時間帯対応)
TEL. 0280-31-5998 FAX. 0280-31-7767